

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援工房 花畑教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	92	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2026年 1月 23日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	SST（ソーシャルスキルトレーニング）の実施	紙面媒体のカリキュラム学習（SST）や育脳プリント、日々の関わりや振り返りを通して、コミュニケーション面を中心とした療育を実施している。	ミーティングにてSST内容の段階分けやねらいの明確化を行い、個々の課題により即した内容を選定・提供する。実践例を職員間で共有し質の均一化を図る。
2	ワーキングメモリーの向上	タブレット学習を活用し、ワーキングメモリー向上を目的とした課題に取り組んでいる。利用日数によっては、データを確認し、成長の可視化ができています。	データを個別支援計画やモニタリングにより積極的に反映し、保護者様へのフィードバックや支援内容の見直しにつなげる。
3	特性に合わせた個別支援計画の作成	職員ミーティング等で情報共有を行い、生徒さん一人ひとりに合わせた支援方針を検討・実践している。家庭との連携も大切にしている。	保護者様の意向をより具体的に支援目標へ落とし込む。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員体制	送迎対応の時間帯により、事業所内の待機職員が手薄になることがある。	送迎ルートや職員配置の見直しを行い、時間帯ごとで手薄になっている場合、必要に応じて調整を行う。
2	連携について	地域の保健・医療・保育・教育機関との直接的な交流や連携の機会がほとんどない。	地域機関との情報交換の場や連携の糸口を検討し、必要に応じて連絡体制の構築を図る。
3			